

資料3 - 3：各委員・河川管理者の提案内容

返信委員数11 名

2001.10.26現在

	委員名	「部会での検討が必要」と考えられる検討項目とその内容	部会の進め方や検討内容等へのご意見	河川管理者または他の委員に聞きたい事項
1	有馬 忠雄	都市河川「淀川」に求められる河川生態系の姿。 ゴルフ場、河川公園その他、利用の在り方。	前回、川上委員から提供のあった話題について、ほとんど検討もされず、話題提供の持つ意味がわかりません。今後、話題提供者はいなくなるかも知れませんが...	特にありません(現在のところ)。
2	川上 聡	別シート有り (P.2～6)		
3	紀平 肇	治水、利水については、これまで十分に役所で考えてこられたので、今後についても役所側から出してもらえばと思う。われわれは、環境を中心に考えていくことが大切だと思う。そして、まず川は本来どうあるべきかという哲学を論議すべきだと思います。そうした上で、保全、回復をまず第一に、治水、利水に関する工事に役立ててもらいたい。利用についてはその次だと思います。こうした論議を是非してほしいと思います。	会議は充分時間をとって、土曜でも日曜でもよいから5～6時間は欲しいと思います。	-
4	田中 真澄	僕は「地域の特性に詳しい委員」として選任されているので、それに基づいて発言したいし、義務だと思っています。前回ファックス送信しましたように「鴨川上流域からの報告と提言」として、 ・整備の基本的考え方 ・河川に対する意識の向上 などの検討項目で発言したいと思います。	これからは各分野での各委員の発言、提言の時間をつくるべき。(現在川上委員ぐらいです)。そこで初めて委員同士の横の議論が必要となり、本当の部会の全体像が見えてくると思います。でないと、部会の存在意義がうすれてしまいます。又、委員会兼任外の部会委員の発言の場を優先的に考えていただきたく思っています。	各委員の分野での意見、提言の発言を終えたところだと思います。
5	谷田 一三	・琵琶湖・淀川水系の生物的固有性(地球史的背景も含む) ・科学的な情報の共有と情報のスクリーニング ・流域レベルでの防災、防災コストと被害とB/C ・淀川水系に特有の防災プラン(びわ湖がダムとして機能) ・舟運(ロック活用を含む)による水都の活性化 ・省庁連関(特に農水及び国交内部) ・河川に関わる住民組織(水防～NPO、NGO、学校)のデータベース	部会ではいろいろなキーワードが出てきます。グロサリーを作れば、委員だけでなく他の人々にも便利。淀川関連のHPやデータベース、リストがあれば...	治水安全度の基準設定<管理者> 地方自治体と河川管理者の関係(含む補助・単独)
6	原田 泰志	別シート有り (P.7)		
7	桝屋 正	別シート有り (P.8)		
8	山本 範子	別シート有り (P.9)		
9	和田 英太郎	河川整備の基本的な考え方について、 1.これまでと現状(水循環、治水、利水、水質、生物多様性、人と水とのかわりなど) 2・今後と将来像 2025年、2050年... について、可能ならば基本設計像を描くことを試みる。 ここでは持続性がキーワードとなる。 部会内にワーキング・グループをつくるのも一案。	琵琶湖-淀川水系が我国、アジアにとって、どのような位置づけになるのか、そのような共通認識と、それに対して委員や住民が個々のレベルでアイデンティティを持てるのか、このような論議も一度は必要と思われる。	(河川管理者への質問)琵琶湖-淀川水系における項目 に関する情報のリストをつくることは可能でしょうか。 今後このようなライブラリーが必要となってくると思われます。
10	渡辺 賢二	1.全国的にダム建設が問題になっている中で、今後、淀川水系にダム建設は必要か否かをあらゆる角度から検討し、淀川部会としての見解を示す必要があるのではないか。又、今回「関西のダムと水道を考える会」からの指摘、要望もあり、琵琶湖部会の方にもこの問題を活発に議論していただき、部会合同の意見交換の中から淀川水系流域委員会としての見解を導き出してほしい。 2.淀川水系上流域までの魚(アユ)の天然溯上をよみがえらせるために、河川横断施設について、魚ののぼりやすい川づくりとしての魚道の設置、又は既存の溯上困難、溯上不可能なものの改修も含めた魚道の整備が必要となる。又、魚道は魚が遡るだけでなく、魚が下降(流下)できるようなものであってほしい。さらに、新設は別にして、改修は流域の途中からではなく、下流域から順に行うのが望ましい。	庶務の方々にお願い致します。一般の方々からの流域委員会への意見・指摘は大いに結構、それを庶務が資料に掲載するのも結構ですが、発言者不明というのは、無責任な意見も出てきますので、個人名まで明らかにして意見等を寄せていただけるよう一般の方々にアピールしていただきたいと思います。	河川管理者に質問ですが、国土交通省河川課では、魚類の溯上環境の改善を積極的に行うために「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」を平成3年度より実施しており、全国19河川をモデル河川に指定しているとのことですが、淀川水系はこの中に含まれていますか。この19河川名を教えてください。
11	倉田 亨	必要だと思える検討項目...【別紙1】に例示された項目はよく考えて頂いています。それを元に(例示を元に)整理してみると→ 1.人間の生存や生物の共存、あるいは環境の維持といった「自然の摂理」持続を図りうる河川のあり方を考え直してみる＝河川のあり方、河川とは、を再検討する。 2.河川の整備計画を立てるに当たって留意すべき事項を洗い出し、必要性の上でウェートをつけた上で、受けとめるべきことをどこまで取り入れて行けるか点検する。その効果やコストの点検を次に行う。その際に他省庁の計画・府県市町村計画との調整分担をどう図るかを検討が必要(法制的、経済的にも)。...例示項目は殆ど点検必要。	参考「検討スケジュール」(案)の「年内の部会での検討予定」の「各流域の課題の分析」＝Aと、「各流域の整備の基本的な考え方」＝Bに沿う形で検討項目を考えるべきだろうと思う。 A(各流域の課題...現状視察や提供されたデータから、あるいは委員方の知見から推察して) B(各流域の河川整備の基本的考え方あるいはその具体的提案) の二つに分けて2～3回ずつ討議しては如何でしょうか。と言っても、現状に対する評価・分析(A)も結局は河川はどうあるべきかという基本的な考え方(B)からなされるもので、明確に分けることは出来ないと思います。それでもよいと思います。恐らく、河川管理者の整備計画が提出されて議論する場合(第8回以後の会議)でも反復して「考え方」「あり方」を持ち出して議論せねばと思います。	琵琶湖西域に関して河川管理者からの資料提供が河川に関してのデータと比較して非常に少ないように思えるのですが...。琵琶湖のあり方が淀川本流下流への影響を単に水量だけで考えてはならない筈なので気になる。
12	河川管理者	別シート有り (P.10～15)		